

氏 名：二田水 彩  
学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 239 号

学位授与年月日：2023 年 9 月 19 日

学位授与の要件：学位規則第 5 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 小山田 恭子（聖路加国際大学教授）

副査 大田 えりか（聖路加国際大学教授）

副査 射場 典子（聖路加国際大学准教授）

副査 小川 正子（独立行政法人国際協力機構派遣専門家）

論 文 題 目： Development and Feasibility Evaluation of the Program to  
Fostering “Goal-Driven Actor” for Health Workforce Involved  
in Primary Health Care in the Republic of Kiribati

キリバス共和国のプライマリーヘルスケアに携わる医療従事者を対象とした「目標達成のための行動力向上プログラム」の開発と実行可能性の評価

#### 博士論文審査結果

本研究の目的は、キリバス共和国の医療従事者を対象に、e ラーニングとワークショップを組み合わせた「ゴール主導型アクター」プログラム（以下、カイケツプログラム）を開発し、その実現可能性を評価するフィージビリティ・スタディである。予備研究として①医療従事者の教育ニーズの把握、②プログラムの中核概念である PCC の概念分析を行った。そのうえで既存のカイケツプログラムをベースとしたプログラムの開発を行った。

本研究では、オンラインワークショップの実施とプログラム全体の評価を行った。クリニカルアウトカムとして、問題解決に関する知識・意欲の増加、People-centered な目標の設定の有無等を評価した。また、プログラムの採用性、適切性、受容性、浸透性を評価した。これらの評価の補足として、ワークショップ後のアンケート、および本プログラムの関係者（キリバス保健医療サービス省と WHO の職員）へのインタビューをおこなった。なお、プログラム開発及び実施の過程は、WHO 西太平洋地域事務局（WPRO）のプロジェクトスタッフとの協働の元進められた。

プログラムにはキリバス保健医療サービス省等を通じて 5 人のキリバス人看護師が参加した。彼らは e ラーニングに取り組み、7 回のワークショップに参加した。ワークショップ講師はカイケツプログラムの専門家が担当し、研究者は全ワークショップのコーディネートと司会を担当した。参加者は問題解決のステップを適用して問題を解決し、そのプロセスと成果を発表した。結果として、問題解決への意欲、知識は向上し、People-centered な目標の設定の有無、問題解決の対策立案率は 100%であった。実行可能性として、オンラインによる参加が困難なケースがあること、問題解決プロセスで必要となるデータ活用等の基礎的技術の不足、ワークショップ間のモチベーション維持の困難さなどが明らかとなった。一方、参加者の上司はプログラムを賞賛し、今後のプログラム継続に意欲を示した。

審査では PCC とカイケツプログラムの基本理念である「顧客第一主義」の関係について、相違点を明示する必要があること、参加者が管理職レベルの職位であること、カイケツプログラム専門家主導のコンサルテーションの提供など豊富なリソースを用いて実施されたことなどから、再現可能性についての検討が必要なこと、クリニカルアウトカムを踏まえた改善点の記述が不足していること、プログラム参加者が 5 名であり、取り組んだ課題や参加状況もさまざまであることから事例の記述を丁寧に行うことがプログラム評価に

において必要であること、PCC を中心概念としたプログラムだが、参加者が取り組んだテーマは医療システムや人材管理の課題などで **People** との協働というプロセスが見られないことについての考察が必要なこと、等の指摘がなされた。

これらの指摘に対し検討、修正がなされ、審査員全員で適切に修正がされたことを確認した。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。